

## 「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取 組 分 野：【交流】

1. 都道府県、市町村 青森県<sup>あしがさわまち</sup>鱒ヶ沢町
2. 事業者名 NPO法人白神自然学校一ツ森校
3. 取組みの名称 都市と農村の交流 - 杉並区の子供達の自然体験塾
4. 取組概要等

### 概 要

白神自然学校は平成15年10月に開校し、地元の一ツ森地区から林業・農業の技術を持っている人たちや山菜料理などの加工技術を持っている人を講師に招いている。

そして、白神山地の山・川・海の自然体験活動を通じた授業を実施し、全国から多く白神山地へ訪れる人を受け入れてきたが、特に、**発足から東京杉並区との交流活動を通して、毎年杉並区の子供達の夏休みと冬休みの自然体験塾の受け入れを行っている。**

特に今年は、子供達の参加が多くなり、秋には杉並区の環境博覧会に出かけ、夏休みの報告会を開催しており、父兄にも喜ばれている。

総合学習の一環として、白神山地の赤石川上流での植林活動を中心とした環境教育の実習を実施してきた。全国から白神山地を訪れる人達に 白神山地の由来 春秋林道建設問題

白神山地の自然遺産の意義 白神山地の動植物たち等の授業を行ってきた。特に白神自然学校は杉並区の教育委員会と「すぎなみ環境博覧会」というイベントを通して交流をしており、昨年より杉並区の子供達を毎年、現場に案内している。現在では練馬区など他区にもこの輪を広げている。さらに、**自然学校を訪れた首都圏の方々を中心としたりピーターで、平成18年、「白神自然学校首都圏倶楽部」を設立した。これからは都市と農村の交流を実現し、大量に発生する団塊の世代の人達の自然回帰の流れを受け入れていきたい。**

平成17年、「オーライ！ニッポン大賞」を受賞し、都市と地方の交流を推進する大きなパイプとして、太くするための戦略を考えている。

特に、都市住民のニーズに答えるためには、白神山地だけではなく、青森県が誇る観光地の下北半島・十和田湖・三内丸山遺跡等との連携、他県との広域的な連携・また、県内で活動するNPOとの連携も視野に入れた取組を通して、**「青森県内を訪れたい」という人達のニーズに答える「多目的なツーリズム思考」の期待を実現するための人的ネットワークや相互の乗り入れを実現していく。**

鱒ヶ沢町の白神自然学校一ツ森校の挑戦は「世界の自然遺産を巡っている人達が、白神山地は素晴らしい受け入れ体制だ」、「白神山地を抱える地域の人達の自然遺産と接するエコツーリズム・グリーン・ツーリズムの取組は世界一」と言われるような観光と自然保護のあり方を世界レベルに併せた形で実現し、鱒ヶ沢町にも貢献していく。

### 活動の規模

項目	H13	H14	H15	H16	H17
来客数			543	1642	1893
解説	単位：人 自然学校を訪れた人				
雇用者数			1	3	4
解説	単位：人				
イベント回数			28	56	64
解説	単位：回 修学旅行・ガイド等の数				
イベント参加者			543	1642	1893
解説	単位：人 自然学校の授業を受けた人				

### 活用している地域資源

季節の山菜等を利用して、自然学校の授業に利用している。

- ・春はタケノコの白神汁。
- ・農家レストランしらかみのメニュー(白神膳：ぜんまい、やまうど、アイコ、鮎、かじか、いわな)
- ・ブナの苗木 植林の授業に利用

### 地域活性化のポイント

一ツ森地区は白神山地を舞台に人々と森との係わりが、またぎの文化として残っている里である。赤石またぎは、山の知識、白神山地の生きたセンサーとして数々の伝統と文化を持っている。また、この人達の山菜採り・川魚捕り・キノコ採り・林業や農業の技術を活かした体験授業と特産品の開発は、これからかなり期待できる。これらの技術を都会の方々は新鮮に受け止める。その技術を残し、都会と交流したり、「田舎暮らしを希望する人達に伝えていく」という広がりを持たれば、地域住民の活躍の場はまだ広がる。現在、15名の地元のアルバイトの雇用と正社員4名を雇用し活動している。

### 事業の今後の展開方向

今後は、修学旅行・田舎暮らしを希望する人達に都会の人達を受け入れるための「農家民宿の輪」を広げ、市民農園の場所を提供する人を増やし、農家レストランのメニューを増やし、自然体験塾の実施の首都圏の区の教育委員会の数を増やして行くことが望みである。また、そういった交流をもった区には、地域ブランドの赤石米・特産のアスパラや季節の野菜を届けたり、区役所の前での農産物の販売会を開催するなど、人・物・サービスの行き来の回数を増やして行く。

